



Auto-generate Your Graphics
BABY UNIVERSE

DDSCV ↗

【Plug-in for Adobe Illustrator】

スクリプト解説書

※ご注意：

本書は、DDSCV で使用するスクリプトの記述方法を解説したモノです。取り扱いの方法を記した使用マニュアルは別途ご用意しておりますので、ご注意願います。

スクリプトに記述できるタグには、次のものがあります。

1) [条件を指定する](#)

- [I F](#)
- [E L I F](#)
- [E L S E](#)

2) [テキストエリアの構成を指定する](#)

- [H T M L](#) テキストエリアの構成を指定する
- [B O D Y](#) 背景色を指定する

3) [画像を配置する](#)

- [I M G](#) 画像を配置する

4) [表を作成する](#)

- [T A B L E](#) 表を作成する
- [T R](#) 行を定義する
- [T D](#) セルを定義する

5) [バーコードを作成する](#)

- [B A R C O D E](#)

注意) バーコードを作成する場合は、別途、弊社製品『S e r i a l B a r C o d e』が必要です。

6) [2次元コード \(QRコード\) を作成する](#)

- [B A R C O D E](#)

注意) 2次元コードを作成する場合は、別途、弊社製品『A I 2 D C o d e - P r o』が必要です。

7) [長体をかける](#)

- [M A X W](#) 指定された幅を超える場合に文字を縮小する
- [F I X W](#) 指定された幅に文字を拡大、縮小する

8) [文字列の書式を変換する](#)

- [Z E N K A K U](#) 半角の文字列を全角に変換する
- [S U U J I](#) 数字を書式化して出力する
- [S U U J I K](#) 数字を漢数字に変換する
- [K I N G A K U](#) 数字を3桁、カンマ区切りで出力する

9) [ルビを作成する](#)

- [S O U N D](#) ルビを作成する

10) [文字のスタイルを指定する](#)

- [F O N T](#) フォントの種類を指定する

11) [ユーザー変数 \(^\\$0~^\\$99\) 値を代入](#)

- [S E T](#) ユーザー変数に値を設定

12) [文字間に指定幅を挿入する](#)

- [W S P A C E](#) 文字間に指定幅(スケール)のスペースを挿入

13) [データの部分的な取り出し](#)

1 条件を指定する

I F

<IF 条件式> ~ </IF>

指定されたCSVファイル内のデータと、指定された値を比較し、条件式が真なら、タグで囲まれた範囲の記述を有効にします。

CSVファイル内のデータは、次の3通りの比較ができます。

- データの内容そのもの
- データの長さ
- データの行数

データの長さとは、データのバイト数のことで、文字数ではありません。全角の文字を2バイト、半角の文字を1バイトとして扱います。

データの行数とは、改行マークの“\r”で区切られたデータの行数のことです。

利用可能な演算子は、“=”、“!=”、“\<”、“\>”、“\<=”、“\>=”です。

条件式は、“&&”（且つ）、または“||”（または）を用いて複数個指定することができます。

<IF 条件式> ~ </IF> の記述内に、I F タグ、E L I F タグ、E L S E タグを入れ子にして指定することができます。

条件式の指定方法を次に示します。

条件式

CSVファイルのデータ 関係演算子 比較値

または、

条件式 論理演算子 条件式

関係演算子

=	左辺が、右辺と、等しい場合、真
!=	左辺が、右辺と、等しくない場合、真
\<	左辺が、右辺より、小さい場合、真
\>	左辺が、右辺より、大きい場合、真
\<=	左辺が、右辺より、小さいか、等しい場合、真
\>=	左辺が、右辺より、大きいか、等しい場合、真

比較値

“文字列”	データの内容を、二重引用符で囲まれた文字列と比較する。
数字	データの長さを、数字と比較する。
数字L	データの行数を、数字と比較する。（数字の後に”L”を付ける。）

論理演算子

&&	且つ
	または

E L I F

<ELIF 条件式> ~ </IF>

直前の <IF 条件式> ~ </IF> で指定されている条件式の結果が偽の場合に、このタグで指定されている条件式を評価して、真ならタグで囲まれた範囲の記述を有効にします。

条件式の指定方法は、I F タグの場合と同じです。

<ELIF 条件式> ~ </IF> の記述内に、I F タグ、E L I F タグ、E L S E タグを入れ子にして指定することができます。

E L S E

<ELSE> ~ </IF>

直前の <IF 条件式> ~ </IF> 文の結果が偽の場合に、タグで囲まれた範囲の記述を有効にします。

<ELSE> ~ </IF> の記述内に、I F タグ、E L I F タグ、E L S E タグを入れ子にして指定することができます。

I F、E L I F、E L S E タグの記述例を次に示します。

例 1) データの内容を比較する

^\$3 で表されるデータが、“優”の場合、“たいへん良くできました。”と出力する。

```
<IF ^$3="優">たいへん良くできました。</IF>
```

例 2) データの長さを比較する

^\$4 で表されるデータが、空の文字列でない場合（文字の長さが 0 でない場合）、【】で囲んで出力する。

（^\$4 に何も設定されていない場合に、【】のみ出力されることを防ぐ。）

```
<IF ^$4!=0>【^$4】</IF>
```

例 3) データの行数を比較する

^\$5 で表されるデータが、1 行か 2 行か 3 行かを判別し、縦方向に下つきで出力する。

（データが 1 行の場合は、データの前に空行を 2 行入れ、2 行の場合は 1 行入れる。3 行の場合は、空行を入れない。<IF 条件式> で条件を指定し、</IF> で閉じる前に改行しているなので、条件が真であれば、改行する。条件が真でなければ改行しない。）

```
<IF ^$5<3L>
```

← データが 3 行より少ない場合（1～2 行の場合）、空行を入れる。

```
</IF><IF ^$5<2L>
```

← データが 2 行より少ない場合（1 行の場合）、空行を入れる。

```
</IF>^$5(0)
```

← データを出力する。

データが 1 行の場合の出力結果

2 行の場合の出力結果

3 行の場合の出力結果

```
神奈川県 藤沢市 鶴沼 100
```

```
神奈川県 藤沢市 鶴沼  
1-20-30
```

```
神奈川県 藤沢市 鶴沼  
1-2-3000  
A B C マンション 213 号
```

例4) “&&” (且つ) を使って複数の条件式を指定する

^\$6 と ^\$7 の両方にデータが設定されている場合にデータを出力する。
(片方だけの場合は、何も出力しない。)

```
<IF ^$6!=0 && ^$7!=0>商品名 : ^$6 価格 : ^$7 </IF>
```

例5) “||” (または) を使って複数の条件式を指定する

^\$1 が半角の“0120”、または全角の“0 1 2 0”で始まる場合に、フリーダイヤルと出力する。

```
<IF ^$1(0,0,0,4)="0120" || ^$1(0,0,0,8)="0 1 2 0" >フリーダイヤル </IF>
```

例6) E L I F、E L S E を使う

^\$2 で表されるデータの内容によって出力する文字列を変える。

```
<IF ^$2= "優">たいへん良くできました。</IF><ELIF ^$2= "良">良くできました。</IF><ELSE>頑張りました。</IF>
```

例7) 条件を入れ子にする

^\$3 で表されるデータに、電話番号が設定されている。

データが“0120”で始まる場合は、“フリーダイヤル”と出力する。“0120”以外の場合は、“電話”と出力する。

さらに、“03”の場合は、“(東京)”、“06”の場合は、“(大阪)”、“045”の場合は、“(横浜)”と出力する。
最後に電話番号を出力する。

```
<IF ^$3(0,0,0,4)="0120">フリーダイヤル </IF><ELSE>電話 </IF><IF ^$3(0,0,0,2)="03">(東京) </IF><ELIF ^$3(0,0,0,2)="06">(大阪) </IF><ELIF ^$3(0,0,0,3)="045">(横浜) </IF>^$3(0)
```

0120 で始まる場合の出力結果

```
フリーダイヤル 0120-10-200
```

03 で始まる場合の出力結果

```
電話 (東京) 03-3333-200
```

06 で始まる場合の出力結果

```
電話 (大阪) 06-6666-200
```

045 で始まる場合の出力結果

```
電話 (横浜) 045-4545-200
```

その他の場合の出力結果

```
電話 0467-6767-200
```

2 テキストエリアの構成を指定する

HTML

```
<HTML> ~ </HTML>
```

IMGタグ、TABLEタグ、及びBARCODEタグを記述する際に使用します。

IMGタグ、TABLEタグ、及びBARCODEタグは、HTMLタグ、及びBODYタグで囲まないと無効です。

HTMLタグは、ひとつのテキストエリア内で、一回だけ記述できます。

HTMLタグを記述したテキストエリア自体は、流し込みを行うと削除されます。

例1) 画像を配置する

(IMGタグについては、IMGタグの説明を参照してください。)

```
<HTML><BODY><IMG SRC="FILE:///image.eps"></IMG></BODY></HTML>
```

流し込みを行うと、テキストエリアは削除され、代わりに画像が配置されます。

出力結果

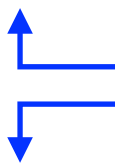


注意) <HTML> ~ </HTML> で囲んだ範囲内に、CSVファイルのデータを流し込む記述をすることもできますが、お勧めしません。

HTMLタグを記述したテキストエリアは削除され、新たにテキストパスを作成するので、元のテキストエリアに設定した文字設定や段落設定が破棄されてしまいます。

また、<HTML> ~ </HTML> で囲んだ範囲内の改行は無視して出力します。

```
<HTML><BODY>住所：[ADDRESS]</BODY></HTML>
```



このような記述はお勧めしません。

文字列を流し込む場合は、HTMLタグを使用しないようにしてください。

```
住所：[ADDRESS]
```

BODY

```
<BODY BGCOLOR=color > ~ </BODY>
```

IMGタグ、TABLEタグ、及びBARCODEタグを記述する際に、使用します。

また、パスの塗りの色を指定することができます。

パスの塗りの色を指定した場合、BODYタグを定義したテキストエリアと同じ位置、同じ大きさ、同じ形状でパスを作成し、そのパスの塗りの色を指定された値に設定します。

パスの線の色は、なくなります。

次の属性を指定することができます。

BGCOLOR パスの塗りの色を指定します。
 以下の形式で、CMYK値を指定します。

 #(Cの値, Mの値, Yの値, Kの値)

BODYタグは、ひとつのテキストエリア内で、一回だけ記述できます。

BODYタグは、HTMLタグと一緒に指定してください。

例1) パスの塗りの色を指定する

 テキストエリアのパスの塗りの色を、C=10%、M=40%、Y=5%、K=0%にする。

```
<HTML><BODY BGCOLOR=#(10, 40, 5, 0)></BODY></HTML>
```

例2) パスの塗りの色を動的に変える

 塗りの色を、CSVファイル内に指定されているデータにする。

 ([COLOR] で表されるCSVファイル内のデータに、CMYK値が指定されているとする。)

```
<HTML><BODY BGCOLOR=[COLOR]></BODY></HTML>
```

3 画像を配置する

IMG

```
<IMG SRC=file ALIGN=align WIDTH=w HEIGHT=h ROTATE=angle>
```

画像を配置します。

E P S、P D F、G I F、J P G等、Illustrator で配置できる形式の画像を配置できます。

配置した画像は、リンクではなく埋め込みとなります。

ファイルから画像を配置する他、弊社製品『DBパレット』で登録した図形を配置できます。

画像は、大きさを指定して配置することができます。

画像の大きさは、幅と高さを、ポイント数、またはパーセント値で指定します。

ポイント数で指定した場合は、指定されたポイント数に、画像を拡大、または縮小します。

パーセント値で指定した場合は、IMGタグを記述したテキストエリアの幅と高さに対して、指定した割合で、画像を拡大、または縮小します。（パーセント値は、元の画像の大きさに対しての割合ではなく、テキストエリアの大きさに対しての割合です。）

パーセント値は、100を超える値を指定しても構いません。

配置する画像の幅と高さを指定しない場合は、元の画像の大きさを配置します。IMGタグを記述したテキストエリアが、元の画像の大きさより小さい場合は、テキストエリアの大きさに合わせて画像を縮小します。

注意) ベクトル画像を配置する場合、線幅は拡大縮小されません。

例えば、長さ100ポイント、線幅1ポイントの直線を、150% 拡大して配置する場合、線の長さは150ポイントになりますが、線幅は1ポイントのままです。

画像は、元の画像の縦横の比率を保って、配置します。

画像の幅と高さの両方が、次の大きさを超えないように、幅、または高さを合わせて、拡大／縮小します。

●幅、高さの指定がない場合

幅 : 元の画像の幅

(元の画像の幅がテキストエリアの幅より大きい場合は、テキストエリアの幅)

高さ : 元の画像の高さ

(元の画像の高さがテキストエリアの高さより大きい場合は、テキストエリアの高さ)

●幅、高さをポイント数で指定した場合

幅 : 指定されたポイント数

高さ : 指定されたポイント数

●幅、高さをパーセント値で指定した場合

幅 : テキストエリアの幅 × 指定されたパーセント値

高さ : テキストエリアの高さ × 指定されたパーセント値

画像の大きさは、幅を優先して合わせます。

画像の幅を、指定された幅に合わせると、画像の高さが指定された高さを超えてしまう場合、画像の高さの方を合わせて、拡大／縮小します。

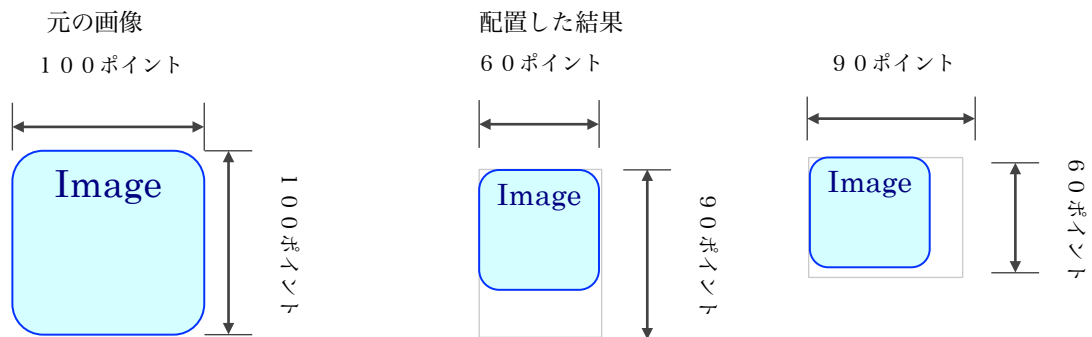
幅100ポイント、高さ100ポイントの画像を配置する記述が、幅60ポイント×高さ90ポイントのテキストエリアと、幅90ポイント×高さ60ポイントのテキストエリアに記述されている場合、次のように画像を縮小します。

幅60ポイント×高さ90ポイント の場合

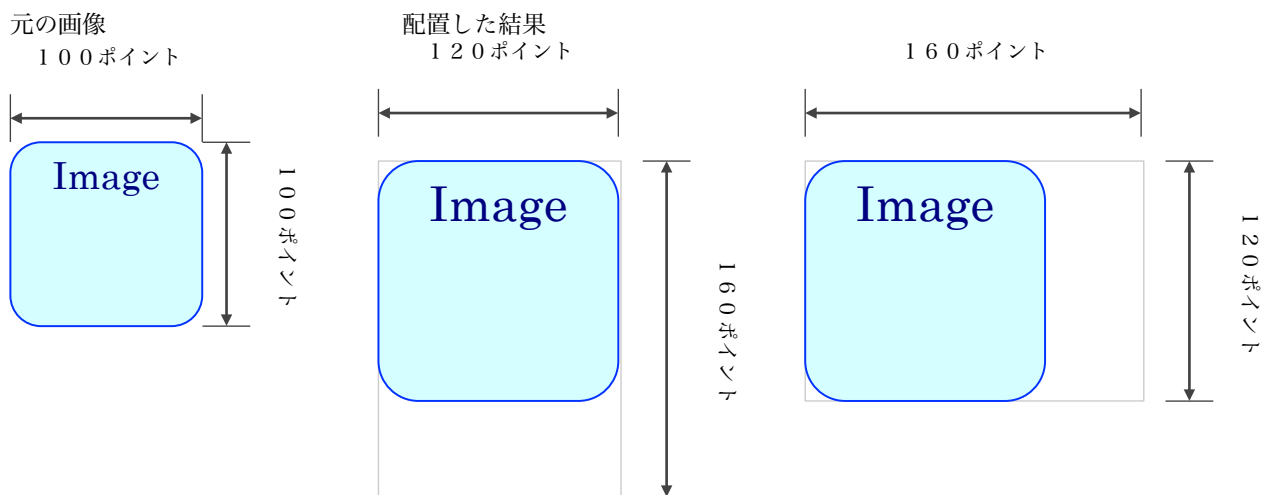
幅に合わせて縮小すると、画像の大きさは、幅60ポイント×高さ60ポイントになる。
この大きさならば、60ポイント×90ポイント内に収まるので、この大きさに配置する。

幅90ポイント×高さ60ポイント の場合

幅に合わせて縮小すると、画像の大きさは、幅90ポイント×高さ90ポイントになる。
この大きさでは、90ポイント×60ポイント内に収まらないので、高さが60ポイントになるよう縮小する。配置した結果は、幅60ポイント×高さ60ポイントになる。



幅120ポイント×高さ160ポイントのテキストエリアと、幅160ポイント×高さ120ポイントのテキストエリアに、画像を拡大して配置する場合は、それぞれ次のようになります。



IMGタグでは、次の属性を指定できます。

IMGタグは、HTMLタグ、BODYタグと一緒に指定してください。

SRC 配置する画像の名前を指定します。必ず指定してください。

画像のファイル名を指定する場合は、ファイル名の前に、“FILE://” を付けて指定します。

（“image.eps” という名前のファイルを指定する場合は、“FILE://image.eps” となります。）

ファイル名は、フルパスで指定しますが、ファイルが、“(Illustratorがインストールされているフォルダ)：QTR：IMAGE” フォルダにある場合は、ファイル名のみで構いません。

DBパレットに登録されているデータを指定する場合は、グループ名と名称を “:” で区切って指定します。（グループ名が“図形”、名称が“電話”の場合は、“図形:電話” となります。）

CSVファイル内のデータに画像のファイル名が設定されている場合は、そのデータの名前を指定します。

ALIGN 画像を配置する位置を指定します。

画像はIMGタグを記述したテキストエリア左端と右端位置を基準に配置します。

位置には、LEFT、CENTER、RIGHTを指定できます。

LEFT を指定すると、IMGタグを記述したテキストエリアに対し、左揃えで配置します。

CENTER を指定すると、中央揃えで、配置します。

RIGHT を指定すると、右揃えで、配置します。

LEFT 左揃え
CENTER 中央揃え
RIGHT 右揃え

省略時の値は、LEFT です。

WIDTH 画像の幅を指定します。指定した幅で画像を配置します。

ポイント数、またはパーセント値で指定できます。

ポイント数で指定する場合は、その数値を指定します。（100ポイントの場合は、“WIDTH=100”と指定します。）

パーセント値で指定する場合は、数値の後に ‘%’ をつけて指定します。（100%の場合は、“WIDTH=100%”と指定します。）

WIDTH の指定をしない場合は、元の画像の幅で配置します。IMGタグを記述したテキストエリアが、元の画像の幅より小さい場合は、テキストエリアの幅に合わせて画像を縮小します。

HEIGHT 画像の高さを指定します。

WIDTHと同様に指定します。

ROTATE 画像の角度を指定します。

例えば、ROTATE=90 で、90° 回転して配置されます。

IMGタグの記述例を次に示します。

例1) ファイル名を指定して画像を配置する

“Macintosh HD:Data:Image” フォルダにある、“image.eps” という名前のファイルを配置する。

```
<HTML><BODY>
  <IMG SRC="FILE://Macintosh HD:Data:Image:image.eps">
</BODY></HTML>
```

例2) CSVファイルのデータに指定されているファイル名の画像を配置する。

[写真01] で表されるデータに指定されているファイルを配置する。

```
<HTML><BODY>
  <IMG SRC=file:///写真01>
</BODY></HTML>
```

例3) 『DBパレット』に登録されている画像を配置する

“図形” というグループに、“電話” という名称で登録されている画像を配置する。

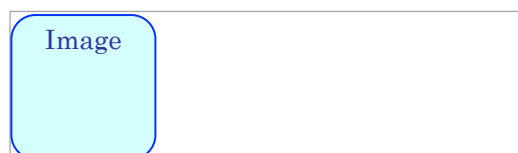
```
<HTML><BODY>
  <IMG SRC="図形:電話">
</BODY></HTML>
```

例4) 画像を、左揃え、中央揃え、右揃えで配置する。

左揃えで配置する

```
<HTML><BODY>
  <IMG SRC="FILE://image.eps" ALIGN=LEFT>
</BODY></HTML>
```

出力結果



中央揃えで配置する

```
<HTML><BODY>
  <IMG SRC="FILE://image.eps" ALIGN=CENTER>
</BODY></HTML>
```

出力結果



右揃えで配置する

```
<HTML><BODY>
  <IMG SRC="FILE://image.eps" ALIGN=RIGHT>
</BODY></HTML>
```

出力結果



例5) 画像の大きさを指定して配置する。

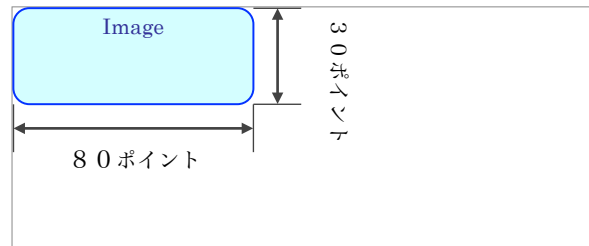
幅200ポイント、高さ75ポイントのテキストエリアに、幅80ポイント、高さ30ポイントの画像を配置する。

画像の大きさを指定しない場合

(元の画像の大きさを配置する。)

```
<HTML><BODY>
<IMG SRC=FILE://image.eps>
</BODY></HTML>
```

出力結果



画像の幅と高さをポイント数で指定した場合

(指定されたポイント数に合わせて画像を拡大する。)

出力結果

```
<HTML><BODY>
<IMG SRC=FILE://image.eps WIDTH=160 HEIGHT=60>
</BODY></HTML>
```



画像の幅と高さをパーセント値で指定した場合

(テキストエリアの大きさに合わせて画像を拡大する。)

出力結果

```
<HTML><BODY>
<IMG SRC=FILE://image.eps WIDTH=100% HEIGHT=100%>
</BODY></HTML>
```



4 表を作成する

T A B L E

```
<TABLE ALIGN=align WIDTH=w HEIGHT=h BORDER=n CELLSPACING=n CELLPADDING=n  
    BORDERCOLOR=color BORDERCOLORDARK=color BORDERCOLORLIGHT=color > ~ </TABLE>
```

表を作成します。

表の外観は、HTML風になります。

表内の行は、TRタグで定義します。

行内のデータ（セル）は、TDタグで定義します。

表のデータとして、画像を指定することもできます。

T A B L Eタグでは、次の属性を指定できます。

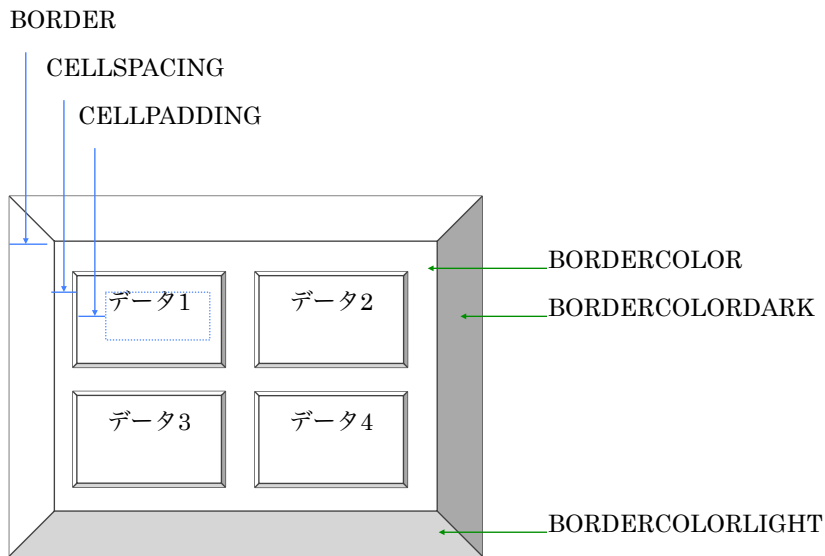
ALIGN 表の作成位置を指定します。
表は、TABLEタグを記述したテキストエリアの、左端と右端の位置を基準にして作成します。
位置には、LEFT、CENTER、RIGHTを指定できます。
LEFT を指定すると、TABLEタグを記述したテキストエリアに対し、左揃えで作成します。
CENTER を指定すると、中央揃えで、作成します。
RIGHT を指定すると、右揃えで、作成します。

LEFT 左揃え
CENTER 中央揃え
RIGHT 右揃え

省略時の値は、LEFT です。

WIDTH 表の幅を指定します。単位はポイントです。
HEIGHT 表の高さを指定します。単位はポイントです。
BORDER 枠線の太さを指定します。単位はポイントです。
指定しない場合は、枠線は出力されません。
CELLSPACING 外枠とセルの間の幅を指定します。単位はポイントです。
CELLPADDING セル内の余白を指定します。単位はポイントです。
BORDECOLOR 枠線の色を指定します。
BORDECOLORDARK 枠線の暗い部分の色を指定します。
BORDECOLORLIGHT 枠線の明るい部分の色を指定します。

T A B L Eタグは、HTMLタグ、B O D Yタグと一緒に記述しなければなりません。



T R

```
<TR ALIGN=align VALIGN=valign > ~ </TR>
```

T A B L E タグの要素です。表の行を定義します。
次の属性を指定できます。

ALIGN セル内のデータの、横方向の表示位置を指定します。
次の位置を指定できます。

LEFT 左揃え
CENTER 中央揃え
RIGHT 右揃え

省略時の値は、LEFT です。

VALIGN セル内のデータの、縦方向の表示位置を指定します。
次の位置を指定できます。

TOP 上揃え
MIDDLE 中央揃え
BOTTOM 下揃え

省略時の値は、TOP です。

TD

```
<TD ALIGN=align VALIGN=valign WIDTH=w HEIGHT=h COLSPAN=n ROWSPAN=n BGCOLOR=color  
NOWRAP > ~ </TD>
```

TR タグの要素です。表のセルを定義します。

次の属性を指定できます。

ALIGN セル内のデータの、横方向の表示位置を指定します。
次の位置を指定できます。

LEFT 左揃え
CENTER 中央揃え
RIGHT 右揃え

省略時の値は、LEFT です。

VALIGN セル内のデータの、縦方向の表示位置を指定します。
次の位置を指定できます。

TOP 上揃え
MIDDLE 中央揃え
BOTTOM 下揃え

省略時の値は、TOP です。

WIDTH セルの幅を指定します。単位はポイントです。

HEIGHT セルの高さを指定します。単位はポイントです。

COLSPAN 横方向に連結するセルの個数を指定します。

ROWSPAN 縦方向に連結するセルの個数を指定します。

BGCOLOR セル内の背景色を指定します。

5 バーコードを作成する

BARCODE

```
<BARCODE TYPE=type DATA="コード" CHECKDIGIT=true or false SHOWHREXT=true or false  
TOJI=left or right ELEMENTSIZE=n TRUNCHEIGHT=n ITEM="文字列"  
ALIGN=align ROTATE=angle>
```

バーコードを作成します。（別途、弊社製品『Serial Barcode』が必要です。）

BARCODEタグを定義したテキストエリアの大きさが、出力するバーコードの大きさより小さい場合は、テキストエリアの大きさに合わせて強制的に縮小します。

BARCODEタグを定義するテキストエリアは、出力するバーコードの大きさより、大きく作成してください。

次の属性を指定することができます。

TYPE

バーコードの種類を指定します。必ず指定してください。

次の種類を指定できます。

JAN_LONG	JAN標準（13桁）
JAN_SHORT	JAN短縮（8桁）
JAN_ISBN	書籍JANコード
UPC_A	UPC-A
UPC_E	UPC-E
UPC_ADDON	UPC-アドオン
IDENTICON_INDUSTRIAL	Industrial 2 of 5
IATA_WALLACE	IATA 2 of 5
COMPUTER_IDENTICS	Code 2 of 5
MATRIX_2OF5	Matrix 2 of 5
INTERLEAVED_2OF5	Interleaved 2 of 5
NEC_2OF5	NEC 2 of 5 (COOP 2 of 5)
UPC_ITF	UPCケースコード
ANSI_CODABAR	CODABAR (NW-7)
CODE39	CODE-39
CODE11	CODE-11
CODE93	CODE-93
CODE128	CODE-128
EAN128	UCC/EAN-128
POSTAL	カスタマバーコード

DATA

出力するコードを指定します。

書籍JANコードで、バーコードを2段で出力する場合は、1段目のコードと2段目のコードの間に、“\t”を入れて記述してください。

CHECKDIGIT

チェックデジットを付加するかどうかを指定します。
チェックデジットを付加する場合は、TRUE を、付加しない場合は、FALSE を指定してください。

TRUE チェックデジットを付加する
FALSE チェックデジットを付加しない

省略時の値は、FALSE（チェックデジットを付加しない）です。
チェックデジットを必ず付ける仕様のバーコードの場合、この属性の指定は意味を持ちません。（必ずチェックデジットが付きます。）

SHOWHRTEXT

バーコード下部に、目視文字を出力するかどうかを指定します。
目視文字を出力する場合は、TRUE を、出力しない場合は、FALSE を指定してください。

TRUE 目視文字を出力する
FALSE 目視文字を出力しない

省略時の値は、FALSE（目視文字を出力しない）です。
出力するフォントの種類は、『Serial Barcode』で設定してください。

TOJI

書籍 J A Nコードを作成する場合に、左綴じなのか右綴じなのかを指定します。
左綴じの場合はLEFTを、右綴じの場合は、RIGHTを指定してください。

LEFT 左綴じ
RIGHT 右綴じ

省略時の値は、RIGHT（右綴じ）です。
バーコードを書籍の裏表紙に印刷する場合は、左右逆となります。
左綴じの場合はRIGHTを、右綴じの場合はLEFTを指定してください。

ELEMENTSIZE

倍率を指定します。
0.2 から 2.0 の範囲で指定してください。
省略時の値は、1.0 です。

TRUNCHEIGHT

バーの高さ（目視文字の部分も含む）を指定します。単位は、mm
です。
指定しない場合は、バーコードの種類によりそれぞれ規定値で作成されます。

ITEM

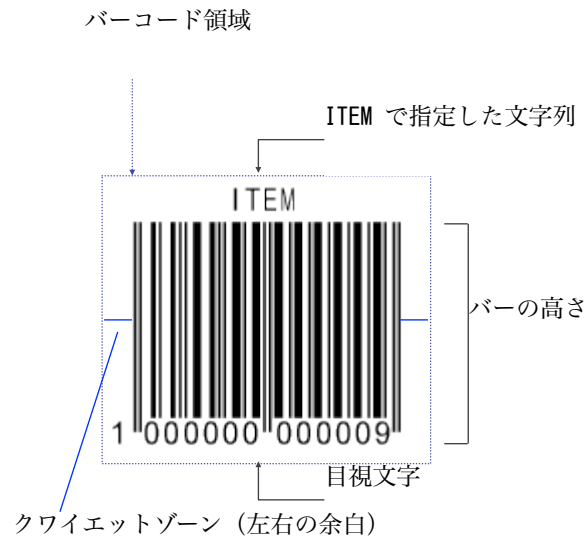
バーコードの上（書籍 J A Nコードの場合は、右または左）に、商品名など、任意の文字列を出力することができます。
出力する文字列を指定してください。
2行以上の文字列を出力する場合は、各行の区切りに、“\r” を記述してください。
出力するフォントの種類は、『Serial Barcode』で設定してください。

ALIGN

作成するバーコード領域の位置を指定します。
バーコードは、BARCODE タグを記述したテキストエリアの、左端と右端の位置を基準にして配置します。
位置には、LEFT、CENTER、RIGHT を指定できます。
LEFT を指定すると、BARCODE タグを記述したテキストエリアに対し、左揃えで配置します。
CENTER を指定すると、中央揃えで、配置します。
RIGHT を指定すると、右揃えで、配置します。

LEFT 左揃え
CENTER 中央揃え
RIGHT 右揃え

省略時の値は、LEFT です。



ROTATE

画像の角度を指定します。
例えば、ROTATE=90 で、90° 回転して配置されます。

バーコード領域（目視文字も含む）の、規定の幅と高さを次の表に示します。

（倍率は、1倍で、バーコード上に文字列を表示しない場合の大きさです。幅の欄に“可変”と記されているバーコードは、コードの桁数によって幅が変わります。）

バーコードの種類		幅 (単位: mm)	高さ (単位: mm)
JAN_LONG	JAN標準 (13桁)	37.3	31.2
JAN_SHORT	JAN短縮 (8桁)	28.1	26.6
JAN_ISBN	書籍JANコード	53.0 OCR用文字も出力する場合 105.8	51.9
UPC_A	UPC-A	37.3	31.2
UPC_E	UPC-E	21.5	26.6
UPC_ADDON	UPC-アドオン	20.1	31.2
IDENTICON_INDUSTRIAL	Industrial 2 of 5	可変	50.9
IATA_WALLACE	IATA 2 of 5	238.3	26.0
COMPUTER_IDENTICS	Code 2 of 5	可変	50.9
MATRIX_2OF5	Matrix 2 of 5	可変	50.9
INTERLEAVED_2OF5	Interleaved 2 of 5	可変	50.9
NEC_2OF5	NEC 2 of 5 (COOP 2 of 5)	可変	50.9
UPC_ITF	UPCケースコード	6桁: 98.5 14桁: 162.5 16桁: 178.5	55.8
ANSI_CODABAR	CODABAR (NW-7)	可変	61.9
CODE39	CODE-39	可変	50.9
CODE11	CODE-11	可変	37.2
CODE93	CODE-93	可変	50.9
CODE128	CODE-128	可変	50.9
EAN128	UCC/EAN-128	可変	50.9
POSTAL	カスタマバーコード	74.9	7.7

BARCODEタグの記述例を次に示します。

例1) JAN標準バーコードを作成する

以下の属性を指定して、バーコードを作成する。

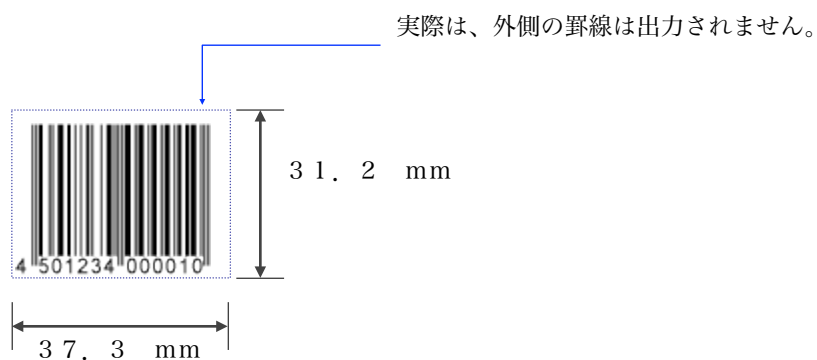
種類	JAN標準
倍率	1.0
目視文字	表示する

```
<HTML><BODY>  
<BARCODE TYPE=JAN_LONG DATA="[barcode_data]" SHOWRTEXT=TRUE ELEMENTSIZE=1.0>  
</BODY></HTML>
```

テキストエリアの大きさは、出力するバーコードの大きさより、大きくしてください。

^CODE(0) で表されるデータの値が、"450123400001" (国コードが 45、メーカーコードが 01234、アイテムコードが 00001) である場合、出力結果は次のようになります。

出力結果



6 2次元コード（QRコード）を作成する

BARCODE

```
<BARCODE TYPE=QRCODE DATA="コード" CELLSIZE=size ECCLEVEL=level ENCODEMODE=mode  
VERSION=n DIVISION=n SHOWHREXT=true or false ITEM="文字列"  
ALIGN=align ROTATE=angle>
```

2次元コード（QRコード）を作成します。（別途、弊社製品『Serial Barcode』が必要です。）

BARCODEタグを定義したテキストエリアの大きさが、出力する2次元コードの大きさより小さい場合は、テキストエリアの大きさに合わせて強制的に縮小します。

BARCODEタグを定義するテキストエリアは、出力する2次元コードの大きさより、大きく作成してください。

次の属性を指定することができます。

TYPE	QRCODE を指定してください。
DATA	出力するコードを指定します。 改行する場合は、行と行の間に、“\r”を入れて記述してください。
CELLSIZE	セルサイズを指定します。必ず指定してください。 単位は、mm です。 0.2 ～ 5.0 の範囲で値を指定してください。
ECCLEVEL	誤り訂正レベルを指定します。 次のレベルを指定できます。 L 7% M 15% Q 25% H 30%

省略時の値は、M（15%）です。

ENCODEMODE

符号化モードを指定します。
次のモードを指定できます。

- * 自動判定
- N 数字モード
- A 英数字モード
- B 8ビットバイトモード
- K 漢字モード
- M 混在モード

* (自動判定) を指定すると、DATA で指定したコードの内容により、適切なモードで作成します。
省略時の値は、* (自動判定) です。

VERSION

バージョンを指定します。

1 ~ 40 の値を指定してください。

0 を指定すると、DATA で指定したコードの長さにより、適切な値で作成します。

省略時の値は、0 (自動判定) です。

DIVISION

分割数を指定します。

1 ~ 16 の範囲で値を指定してください。

0 を指定すると、DATA で指定したコードの長さにより、適切な値で作成します。

省略時の値は、0 (自動判定) です。

SHOWHRTEXT

バーコード下部に、目視文字を出力するかどうかを指定します。

目視文字を出力する場合は、TRUE を、出力しない場合は、FALSE を指定してください。

- TRUE 目視文字を出力する
- FALSE 目視文字を出力しない

省略時の値は、FALSE (目視文字を出力しない) です。

出力するフォントの種類は、『Serial Barcode』で設定してください。

ITEM

2次元コードの上に、任意の文字列を出力することができます。

出力する文字列を指定してください。

2行以上の文字列を出力する場合は、各行の区切りに、“\r” を記述してください。

出力するフォントの種類は、『Serial Barcode』で設定してください。

ALIGN

作成する2次元コードの位置を指定します。

2次元コードは、BARCODEタグを記述したテキストエリアの、左端と右端の位置を基準にして配置します。

位置には、LEFT、CENTER、RIGHTを指定できます。

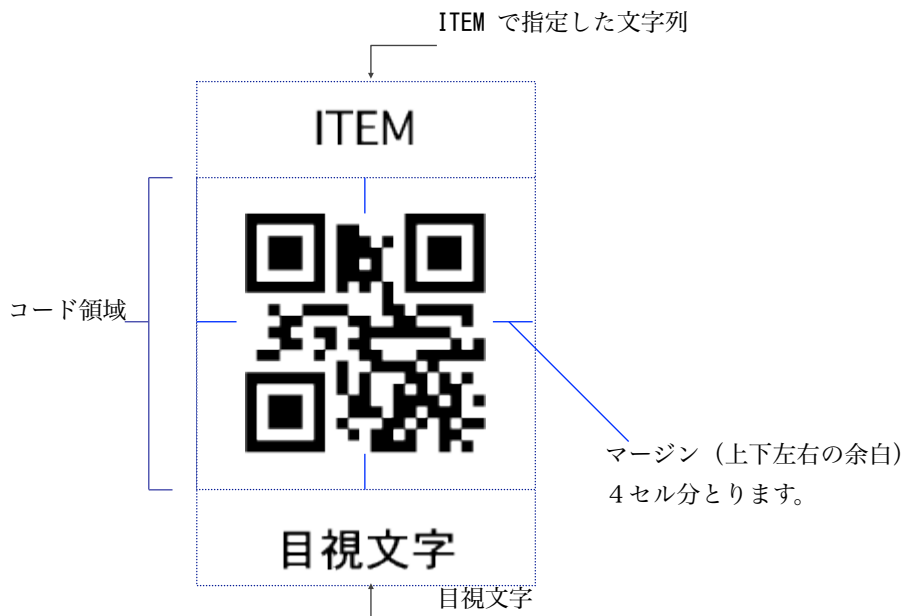
LEFT を指定すると、BARCODEタグを記述したテキストエリアに対し、左揃えで配置します。

CENTER を指定すると、中央揃えで、配置します。

RIGHT を指定すると、右揃えで、配置します。

LEFT 左揃え
CENTER 中央揃え
RIGHT 右揃え

省略時の値は、LEFT です。



ROTATE

画像の角度を指定します。

例えば、ROTATE=90 で、90°回転して配置されます。

BARCODE タグの記述例を次に示します。

例 1) 2次元コードを作成する

以下の属性を指定して、2次元コードを作成する。

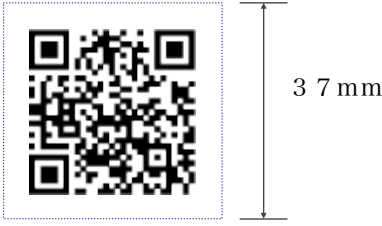
セルサイズ 1 mm
誤り訂正レベル M (15%)
符号化モード 8ビットバイトモード
バージョン 3

```
<HTML><BODY>  
<BARCODE TYPE=QRCODE DATA="[barcode_data]" CELLSIZE=1 ECCLEVEL=M ENCODEMODE=B VERSION=3  
SHOWHRTEXT=FALSE>  
</BODY></HTML>
```

テキストエリアの大きさは、出力する2次元コードの大きさより、大きくしてください。

[barcode_data] で表されるデータの値が、“<http://www.baby-universe.co.jp>”である場合、出力結果は次のようになります。

出力結果



バージョン 3 は、29セル×29セルです。
上下左右に4セル分ずつ余白が取られます。
セルサイズに、1 を指定しているので、上下左右の幅は、
 $(29 + 4 \times 2)$ セル \times 1 mm = 37 mm
です。

実際は、外側の罫線は出力されません。

例 2) 目視文字付きで 2次元コードを作成する

以下の属性を指定して、2次元コードを作成する。

セルサイズ	1 mm
誤り訂正レベル	M (15%)
符号化モード	自動判定
バージョン	自動判定
目視文字	出力する

```
<HTML><BODY>
<BARCODE TYPE=QRCODE DATA=" [barcode_data]" CELLSIZE=1 ECCLEVEL=M ENCODEMODE=* VERSION=0
SHOWHRTEXT=TRUE ITEM=" [barcode_item]" >
</BODY></HTML>
```

テキストエリアの大きさは、出力する 2次元コードの大きさより、大きくしてください。

[barcode_data]、[barcode_item] で表されるデータの値がそれぞれ以下の場合の、出力結果を次に示します。

[barcode_data]	“TEL: 0466-55-3000\rURL: http://www.baby-universe.co.jp”
[barcode_item]	“株式会社 ベビーユニバース”

出力結果



実際は、外側の罫線は出力されません。

7 長体をかける

文字列が指定された幅に収まるように、文字の幅を縮小、または拡大します。フォントサイズはそのまま、水平比率を変更します。

注意) 長体をかける指定をした個所に、Illustrator の文字設定で“詰め”や“文字組み” (“文字ツメ”、“アキ”) を設定した場合は、正しく長体がかからない場合があります。

注意) 文字組み方向が縦組みの場合、全角と半角が混在している文字列には正しく長体がかかりません。

MAXW

```
<MAXW W=w> ~ </MAXW>
```

文字列が指定された幅に収まらない場合、指定された幅に収まるように、長体をかけます。(水平方向に縮小します。)

次の属性を指定してください。

W 文字列の幅を指定します。単位はポイントです。

例 1) 指定した幅に収まるように文字幅を縮小する

幅 90 ポイントを指定して、

日本語 5 文字のデータ (“日本印刷所”) と、10 文字のデータ (“株式会社 日本印刷所”) を、フォントサイズ 12 ポイントで、それぞれ流し込んだ場合

```
<MAXW WIDTH=90> [COMPANY] </MAXW>
```

出力結果は、次のようになります。

日本印刷所

→ 90 ポイント未満なので、そのまま出力する。

株式会社 日本印刷所

→ 90 ポイントを超えるので、縮小する。

幅 90 ポイント

FIXW

```
<FIXW W=w> ~ </FIXW>
```

文字列が、指定された幅にちょうど収まるように、長体をかけます。（水平方向に拡大、または縮小します。）

次の属性を指定してください。

W 文字列の幅を指定します。単位はポイントです。

例1) 指定した幅に収まるように、文字幅を拡大、または縮小する

幅90ポイントを指定して、

日本語5文字のデータ（“日本印刷所”）と、10文字のデータ（“株式会社 日本印刷所”）を、
フォントサイズ12ポイントで、それぞれ流し込んだ場合

```
<FIXW WIDTH=90>[COMPANY]</FIXW>
```

出力結果は、次のようになります。

日本印刷所

→ 90ポイント未満なので、拡大する。

株式会社 日本印刷所

→ 90ポイントを超えるので、縮小する。

幅 90ポイント

8 文字列の書式を変換する

ZENKAKU

<ZENKAKU> ~ </ZENKAKU>

半角の文字を全角に変換します。

例 1)

全角、半角が混在しているデータを、全て全角にして出力する。

```
<ZENKAKU>[DATA_1]</ZENKAKU>  
<ZENKAKU>[DATA_2]</ZENKAKU>  
<ZENKAKU>[DATA_3]</ZENKAKU>
```

[DATA_1]、[DATA_2]、[DATA_3]で表されるデータの値が、それぞれ次のような場合の出力結果を示します。

[DATA_1]	“0466(77)700”	全て半角
[DATA_2]	“0 4 6 6 (8 8) 8 0 0”	数字は全角だが、() が半角
[DATA_3]	“0 4 6 6 (9 9) 9 0 0”	全て全角

出力結果

```
0 4 6 6 ( 7 7 ) 7 0 0  
0 4 6 6 ( 8 8 ) 8 0 0  
0 4 6 6 ( 9 9 ) 9 0 0
```

S U U J I

<SUUJI W=w DIGIT=n> ~ </SUUJI>

半角の数字列を書式化して出力します。

全角の数字は、変換しません。半角の数字と半角の小数点“.”（ピリオド）が変換対象です。

次の属性を指定できます。

- W** 出力する文字列の幅を指定します。指定の幅に収まるよう右揃えで出力します。出力する文字列が指定された幅に収まらない場合は、水平方向に縮小します。単位はポイントです。指定しない場合は、左から出力します。
- DIGIT** 小数点以下の桁数を指定します。指定しない場合は、小数点以下を出力しません。

例 1)

幅 40 ポイント内に、小数点以下 1 桁で数字を出力する。

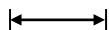
```
サイズ  
<SUUJI W=40 DIGIT=1>[SIZE_1]</SUUJI> (cm)  
<SUUJI W=40 DIGIT=1>[SIZE_2]</SUUJI> (cm)
```

[SIZE_1]、[SIZE_2] で表されるデータの値が、それぞれ次のような場合の出力結果を示します。

[SIZE_1]	“102”
[SIZE_2]	“98.2”

出力結果

```
サイズ  
102.0 (cm)  
98.2 (cm)
```



40 ポイント

S U U J I K

```
<SUUJIK W=w DIGIT=n > ~ </SUUJIK>
```

半角の数字列を漢数字に変換します。

全角の数字は、変換しません。半角の数字と半角の小数点“.”（ピリオド）が変換対象です。

次の属性を指定できます。

- W** 出力する文字列の幅を指定します。指定の幅に収まるよう右揃えで出力します。出力する文字列が指定された幅に収まらない場合は、水平方向に縮小します。単位はポイントです。指定しない場合は、左から出力します。
- DIGIT** 小数点以下の桁数を指定します。指定しない場合は、小数点以下を出力しません。

例 1)

```
<SUUJIK>[DATA_1]</SUUJIK>  
<SUUJIK>[DATA_2]</SUUJIK>  
<SUUJIK DIGIT=2>^[DATA_3]</SUUJIK>
```

[DATA_1]、[DATA_2]、[DATA_3] で表されるデータの値が、それぞれ次のような場合の出力結果を示します。

[DATA_1]	“1234567”
[DATA_2]	“0”
[DATA_3]	“100.20”

出力結果

```
百二十三万四千五百六十七  
零  
百・二〇
```

K I N G A K U

<KINGAKU W=w DIGIT=n > ~ </KINGAKU>

半角の数字列を3桁ごとに“,”（カンマ）で区切って出力します。

全角の数字は、変換しません。半角の数字と半角の小数点“.”（ピリオド）が変換対象です。

次の属性を指定できます。

- W** 出力する文字列の幅を指定します。指定の幅に収まるよう、右揃えで出力します。出力する文字列が指定された幅に収まらない場合は、水平方向に縮小します。単位はポイントです。指定しない場合は、左から出力します。
- DIGIT** 小数点以下の桁数を指定します。指定しない場合は、小数点以下を出力しません。

例1)

価格： <SUUJIK>[PRICE]</SUUJIK> 円

[PRICE] で表されるデータの値が、次のような場合の出力結果を示します。

[PRICE] “12000”

出力結果

価格： 12,000 円

9 ルビを作成する

SOUND

```
<SOUND VALUE="文字列"> ~ </SOUND>
```

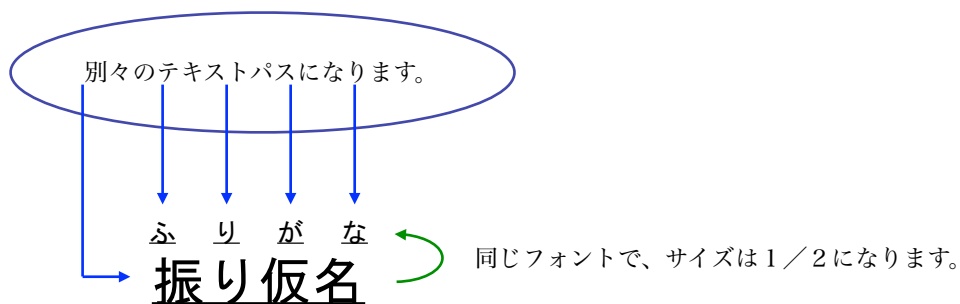
ルビをつけます。

ベースとなる文字列 (<SOUND> ~ </SOUND> で括られた文字列) の上、または脇に、ルビを均等に配置します。

ルビは、ベースとなる文字列の 1 / 2 のフォントサイズになります。

フォントの種類は、ベースとなる文字列と同じです。

ベースとなる文字列と、ルビの各文字は、別々のテキストパスになります。



注意) Illustrator の文字設定で、ベースライン移動 (Illustrator CS の場合は、ベースラインシフト) を設定した場合、ルビの垂直方向の位置がずれます。ベースライン移動 (ベースラインシフト) の設定は行わないでください。

次の属性を指定してください。

VALUE ルビとして出力する文字列を指定します。

例 1) ルビをつける

[NAME] で表されるデータに、[YOMI] に設定されている文字列をつける。

```
<SOUND VALUE=" [YOMI]" >[NAME]</SOUND>
```

[NAME] の値が“山田 花子”で、[YOMI] の値が“やまだはなこ”である場合、出力結果は次のようになります。

出力結果

```
やまだはなこ  
山田 花子
```


10 文字のスタイルを指定する

FONT

```
<FONT COLOR=color FACE=face > ~ </FONT>
```

指定されたフォントの属性で、文字列を出力します。
次の属性を指定することができます。

COLOR	文字の塗りの色を指定します。 以下の形式で、CMYK値を指定します。 #(Cの値, Mの値, Yの値, Kの値) 指定しない場合は、文字にあらかじめ設定されている色で出力します。 文字の線の色を変えることはできません。
FACE	フォントの名前を指定します。 英語表記の名前で指定してください。 指定しない場合は、文字にあらかじめ設定されているフォントで出力します。

例1) 文字の色を変える

文字列の色を、[COLOR] で表されるデータに設定されている値に変えて出力する。

```
<FONT COLOR=[COLOR]>色が変わります。</IF>
```

[COLOR] の値が、”#(100,0,100,0)” (C=100% , M=0% , Y=100% , k=0%) だった場合、出力結果は次のようになります。

出力結果

```
色が変わります。
```

例2) フォントを変える

文字列を、[FONT] で表されるデータに設定されている名前のフォントに変えて出力する。

```
<FONT FONT=[FONT]>フォントが変わります。</IF>
```

[FONT] に指定されている名前のフォントで出力します。

出力結果

```
フォントが変わります。
```

1.1 ユーザー変数に代入

SET

```
<SET V=variable_number > ~ </SET>
```

ユーザー変数 (^\$1 ~ ^\$99) に値を設定します
次の属性を指定することができます。

- V ユーザー変数の番号を指定します。(1~99)
DDCSV で、<IF ...> タグや、部分文字列を使う場合は、<SET> タグを使って、
ユーザー変数に代入して下さい。

例 1) ユーザー変数 ^\$1 に、“[住所]” (DDCSV の CSV 項目) を設定

```
<SET V=1>[住所]</SET>
```

1.2 文字間に指定幅を挿入する

W S P A C E

```
<WSPACE W=space_width > ~ </WSPACE>
```

文字間に指定幅(スケール)のスペースを挿入します。

次の属性を指定することができます。

W 文字間に挿入するスペースの横幅を指定します。
直前の長体に指定倍を乗じたものが、スペースの幅に成ります。

例1) “[名前]” (DDCSV の CSV 項目) の文字間に、0.5倍のスペースを挿入

```
<WSPACE W=0.5>[名前]</WSPACE>
```

出力結果 ([名前] が “山田太郎” の場合)

```
山 田 太 郎
```

1.3 データの部分的な取り出し

CSVファイルのデータを、部分的に取り出すことができます。

次のように指定します。

^データの名前(ファイル番号, データ番号, 開始位置, 文字長)

^データの名前(ファイル番号, データ番号, “開始文字”, “終了文字”)

開始位置には、データを取り出す位置を指定します。データの先頭を0とした、バイト数を指定します。半角文字を1バイト、全角文字を2バイトと計算します。

開始位置にマイナスの数字を指定した場合は、データの末尾から取り出します。

文字長には、取り出すデータの長さをバイト数で指定します。

ヘッダー部分やテイル部分のデータは、データ番号として0を指定してください。

開始文字には、取り出すデータの直前の文字を指定します。

終了文字には、取り出すデータの直後の文字を指定します。

開始文字と終了文字に挟まれた部分のデータを取り出します。

開始位置と文字長を指定して、データを部分的に取り出す場合の指定例と、取り出した結果を次に示します。

^\$1(0)で表されるデータに、“あいうえおかきくけこさしすせそ”という文字列が設定されているとします。

例1) データの先頭から、10バイト(全角で5文字)取り出す

^\$1(0,0,0,10) → あいうえお

例2) データの先頭の4バイト(全角で2文字)目から、10バイト取り出す

^\$1(0,0,3,10) → うえおかき

例3) データの末尾から、10バイト取り出す

^\$1(0,0,-0,10) → さしすせそ

開始文字と終了文字の指定例と、取り出した結果を次に示します。

^DATA(0)で表されるデータに、“03(99)2000”という文字列が設定されているとします。

例4) “(”と“)”に挟まれた部分の文字列を取り出す。

^\$1(0,0,”(,”)”) → 99

■ DDCSV に関するお問い合わせ先

※お問い合わせは必ず FAX or E-mail をお願い致します。

(株)ベビーユニバース DDCSV係

FAX: 0466-55-3001

E-mail: info@baby-universe.co.jp

■最新情報は下記ホームページへ

<http://www.baby-universe.co.jp>